



《深まる秋》2011年 181.8×227.3cm

IKEGUCHI CHIKAKO

池口史子展 **アトリエ初公開**

2024.4.11 **木** - 6.16 **日**

堺屋太一記念 東京藝術大学 美術愛住館

休館日 月曜日・火曜日

開館時間 11:00-17:00 (入館は16:30まで)

入館料 一般500円/大学・高校生300円 (学生証提示)

※中学生以下、東京藝術大学教職員及び学生は無料

※団体(10名以上)は100円割引

主催 東京藝術大学・一般財団法人堺屋記念財団

池
史
子



堺屋太一記念 東京藝術大学
美術愛住館
Aizumi Art Museum

〒160-0005
東京都新宿区愛住町2-5
TEL: 03-6709-8895
URL=<http://aizumikan.com>



池口史子展

IKEGUCHI CHIKAKO

2024.4.11|木|—6.16|日|

[会場] 堺屋太一記念 東京藝術大学 美術愛住館
[会期] 2024年4月11日(木)～6月16日(日)
[休館日] 月曜日・火曜日
[開館時間] 11:00-17:00 (入館は16:30まで)
[入場料] 一般500円/大学・高校生300円(学生証提示)
※中学生以下、東京藝術大学教職員及び学生は無料
※団体(10名以上)100円割引
[主催] 東京藝術大学・一般財団法人堺屋記念財団



《深まる秋》2023年 130.3×162.0cm

池口史子展 ギャラリートークイベント

【対談】池口史子×小杉小二郎(洋画家)

日時 5月11日(土)14:00～15:00【予約制】

場所 美術愛住館1階展示室

参加費 無料(観覧料のみ)

※定員になり次第締め切らせていただきます。



《くちなしの花》1982年 40.9×31.8cm



《中庭》2008年 116.7×90.9cm



《夜明け》2021年 97.0×162.0cm

池口 史子(いけぐち ちかこ)

洋画家。1943年旧満州大連生まれ。62年に東京藝術大学油画科入学、山口薫教室に学ぶ。68年同大学院修了。外国風景・人物・花をモチーフに独自の世界を追求。93年、『もうすぐ晴れる・I』で倫雅美術奨励賞を受賞。2004年『ワイン色のセーター』で損保ジャパン東郷青児美術館大賞を受賞。12年、女性洋画家として初めて恩賜賞・日本藝術院賞を受賞し日本藝術院会員となる。現在は日本画壇を代表する洋画家の一人であるとともに、日本の芸術文化の発展に寄与するため、18年には夫で作家・経済評論家の故・堺屋太一(本名=池口小太郎)と旧邸宅を改修した「美術愛住館」を設立。日本人洋画家の作品を中心に展覧会を行い、19年に同館を東京藝術大学に寄贈する。日本藝術院会員、立軌会同人、堺屋太一記念 東京藝術大学 美術愛住館名誉館長。

「人生は短い。
と最近つくづく思うのだが、
過去の絵ひとつひとつに入り
込むと案外長いように思える。
絵を続けて来て良かったのか
も知れない。」

—池口史子画集より—

アトリエ初公開!!

この度、堺屋太一記念 東京藝術大学 美術愛住館では、当館の設立者・堺屋太一の妻で洋画家・池口史子の展覧会を開催いたします。今回の展覧会は、館の1階から4階の池口史子旧アトリエまでを初公開した大規模回顧展になります。美術評論家で埼玉県立近代美術館館長の建畠哲氏は、池口作品を次のように述べています。「池口史子の作品には、いわゆる和臭がない。近代の洋画家たちは日本的な固有性を短絡的に目ざすことで足をすくわれることが少なくはなかったが、彼女は幸いにしてそのような急なモラルとは無縁でありえたのだ。そのことにおいても池口史子は正統なる洋画家といえるに違いない。」風景・花・人物、三つのテーマを描き続け、変化してきた洋画家・池口史子の作品40点余りを展示、その全貌に迫ります。

堺屋太一記念 東京藝術大学
美術愛住館
Aizumi Art Museum

〒160-0005
東京都新宿区愛住町2-5
Tel: 03-6709-8895
<http://www.aizumikan.com>
◇アクセス◇
東京メトロ丸の内線「四谷三丁目」
駅2番出口徒歩3分/都営新宿
線「曙橋」駅A1出口徒歩8分
※駐車場はございません。

